



この「まちづくりニュース」は、「からと まちづくりワークショップ」の開催内容や参加者の意見、取りまとめた成果などを市民の皆さまにご報告するために発行しています。

第4回テーマ

「観光」×「商業」×「暮らし」でまちを描こう！

5月31日(日)、下関市役所にて、「第4回からとまちづくりワークショップ」を開催しました。「からと」の“これから”を考えるためのワークショップで、今回は24名にお集まりいただき、5グループに分かれて検討していただきました。

最初に、過去3回のワークショップから浮かび上がってきた「からと」の3つのキーワード「観光」、「商業」、「暮らし」について改めて確認しました。

続いて、これらのキーワードが「誰にとってのものなのか」、様々な立場から「からと」の可能性を探りました。

次に、これまでの意見を基に整理した現在の「からと」のエリア分けを表した図を事務局

からお示しました。それを見ながら、「からと」に足りない施設やサービスを付箋に書き出し、未来の「からと」でどんな軸や拠点(通りや人々が集まる活動の場所)ができるか、グループで話し合いました。その成果をグループごとに全体場で発表していただきました。

最後に感想カードにご記入いただき、第4回のワークショップを終了しました。

2025年12月から続けてきたワークショップも次回がまとめの回となります。まちの将来像のイメージを共有し、今後のまちづくりの進め方について議論する予定です。次回の開催については改めてご案内いたしますので、引き続きのご参加をお待ちしております。

第4回プログラム

- ステップ1：はじめに
- ステップ2：昨年度のワークショップの内容を再整理しよう
- ステップ3：「観光」「商業」「暮らし」の観点から「からと」の可能性を考えてみよう
- ステップ4：将来の「からとの軸と拠点」のイメージを広げよう
- ステップ5：検討内容の発表
- ステップ6：まとめ

全体のワークショップの様子



※本ニュースに掲載している、当日参加者の皆さまにご記入いただいた内容については、内容の趣旨を尊重するため、明らかな誤字を除き、原文のまま掲載しています。

「からと」の現状資源(観光・商業・くらし)

過去3回のワークショップから浮かび上がってきた「からと」の3つのキーワードについて、全体の場でスライドを見ながら事務局から説明しました。

[キーワード1]観光とくらしをつなぐ商業拠点

(出された意見のまとめ)

- 旧秋田商会ビルや郵便局、英国領事館など歴史的な建物をもっとPRすべき
- 唐戸市場、海響館、あるかぼーとのような観光客向け施設は地元の方も利用する場所
- 亀山八幡宮は地元民が味わう海峡の景色を観光客も共有できる場所
- 中心部の商店街が以前のように活気づけば地元の生活風景が観光にもなる

[キーワード2]くらしと商業を取り囲む観光拠点

(出された意見のまとめ)

- 唐戸商店街は五感を刺激する場所であり、観光客も呼び込めば商業活性化になる
- 唐戸市場は市民の台所であり、観光客の楽しみでもある

[キーワード3]歴史や風景につなぐくらしの拠点

(出された意見のまとめ)

- 観光、商業と合わせて唐戸商店街への意見もあった
- 英国領事館でシーズンのイベントに参加
- くらしの中で市場を利用している

新しい資源(事務局から)

- ◇火の山のヒノヤマリングからの海峡の景色に感動した
- ◇マンホールやポストにふくがアピールされていたり、講和記念館と引接寺の間の細い道など、皆さんにとっては生活の一部かもしれないが外の目から見ると素敵だと感じた
- ◇資源を点ではなく面として捉え、日本遺産関門ノスタルジック街道などでまとめてみるのもいいのではないかなと思う

全体の場
での質疑

参加者1：唐戸のまちづくりの範囲は徒歩圏内か、車移動の範囲もイメージするのか。

事務局：基本的には赤く囲んだエリアを「からと」地区として、ここを中心に考えていただきたい。火の山公園は歩いて行くには厳しい距離だが、広域的に捉え、観光客に足を延ばしてもらいたい場所についても、ご意見いただければと思う。

参加者2：唐戸町5号線の延伸が図面に載っていないが、桜並木を延ばすと聞いている。

事務局：それについても、ワークショップに取り入れていただきたい。

参加者3：観光客や暮らしている人の流れはどうなっているか。

事務局：今回、観光の流れを面として捉えて提案していただくワークがある。その中で観光客や地元の方がどう動いているのか、そのつながりを提案いただきたい。

参加者4：唐戸の仕事を手伝った際、観光客に「ふぐ屋通りはどこか」とよく聞かれたが、下関にはふぐ屋通りはないと回答をするしかなく非常に残念だった。亀山八幡宮の上には世界一大きなふぐの像があるが、その他にインスタ映えするようなものがない。シンガポールにはマーライオンがあり、観光客が来て写真を撮っていた。桜並木の通りにふぐを模した街灯をつなげたり、頭がトラフグで体がクジラの像など、インスタ映えする写真が撮れるといい。建物や関門橋はあるが、隠れたところに撮ってみたいと思うようなものがある、そういう発想がこのまちにはない気がする。昔は喜多川さんやなかおさんといった有名なふぐ屋があったが、今はないからといって、ここをふぐ屋通りにしてはならないということもないと思う。日本で有名なものののに、なんでそれを利用できていないのか。

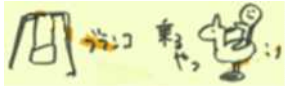
事務局：下関は全国的に有名なふぐという資源、ポテンシャルがあるが、それを活かしきれていないということだと思う。この後のワークで足りないもの、アピールできるものを提案していただきたい。

誰にとっての「観光」、「商業」、「くらし」なのか

もしわたしが〇〇だったら何がしたいか、その〇〇に対して「からと」で提供できるものは何か、様々な立場になって、意見を出し合いました。

凡例 A：もしわたしが〇〇だったら何がしたいか？
B：〇〇に対して、「からと」で提供できるものは？不足しているものは？

1グループ

くらし分野	移住者 A：物件そもそもないよね。散策。地元を教えてもらう。 B：物件探せる、自治会のルール学ぶ 働く単身者 A：食事（認知症カフェ） B：コインランドリー 地区の子どもたち A：行事に参加したい。大人の見守り。 B：遊び場がない(道で遊んでいるこども) 規制のない場所 (ボール、スケボーetc…)	近隣住民 A：日常の買い物 散歩 B：散歩コースになるような看板などを示す。come backサンリブ!! 地区の子育て世帯 A：公園、遊具、無料で遊べる。イベント参加。  ランニングが趣味だったら A：スポーツ（ランニング）の人向けの休憩施設
	若者 A：観光未満の <u>娯楽</u> 。ペット連れOK B：レンタサイクル。シェアスポットをたくさん。海側以外に置くと「からと」へ来るきっかけに。ランステーション。 地区の高齢者 A：休けい。顔見知りと会えるコミュニケーション。買い物。お出かけ欲を満たす。 B：買い物含め <u>歩きやすい</u> 、 <u>散歩しやすい</u> 、 <u>集える場所</u> 。 <u>エレベーター</u> 歩道橋。	熟年夫婦 A：おいしいものを食べに行きたい。食事。夫婦別行動で満足できる観光。待ち合わせ場所。 下関市民 A：安く駐車したい、買い物。バスが少ない、夜早すぎ。 B：市民割あればいいのに…。昔ながらのお店や市場の情報（SNS）。知らないと行かない。 門司の人 A：船の割引あるとうれしい！（門司区民、下関市民割）
商業分野	唐戸市場からの観光客 A：地元の人しか行かないようなお店に行きたい B：日曜でも開いてほしい（お寿司は金、土、日） 外航クルーズ船の乗務員 A：ガイド？休けい？ほっとひと息できる観光客向けではないところへ行きたい B：地元民のおすすめ情報。Cafeなど。 日本人団体客 A：ふぐを食べたい。地元のものを食べたい。	外国人観光客 A：日本風の体験がしたい。日本の食べ物を味わいたい。 B：和菓子、和食◎キャッシュレス対応が足りない。 家族連れ観光客 A：子どもが楽しめるところへ行きたい。遊び場←安価に体験できる施設 赤ちゃん向けの設備。 B：情報が足りない。海沿いばかりになってしまう。
観光分野		

1グループ



2グループ

観光分野

下関市民

- A：市民も楽しめる場所
- B：足湯のように地元の人でも来訪者も楽しさを共有する、のんびりできるものがあると良い

案内人

- A：唐戸の良いところを案内したい
- B：足りないサービス→唐戸を案内できる人、人的接触が得られること。

日本人団体客

- A：自由行動の時に地域に何があるのか知りたい。特産品など。
- B：地元のお店などをPRするもの、場所

商業分野

外国人観光客

- A：美味しい魚料理が食べたい
- B：外国人が行きたくなる、外国人にわかりやすい看板

家族連れ観光客

- A：下関、唐戸ならではのものがゆっくり食べられるようなお店に行きたい
- B：子どもがゆっくりすごして食事できるスペース、お店が欲しい。

地元住民

- A：皆が集まって買い物したり話せる広い場所を作りたい
- B：カラトピアを活用したい。空いている2階から上の部分。

くらし分野

近隣住民

- A：観光客が来ても自由に車を出したい
- B：駐車場

唐戸市場からの観光客

- A：地域の人との交流
- B：一緒に交流できる場所

地区の高齢者

- A：顔見知りとゆっくり過ごしたい
- B：ゆっくり過ごすスペースがない

移住者

- A：地元の人と関わりたい
- B：関わるイベントやスペースが欲しい

地区の子育て世帯

- A：子どもが外で遊べない、場所がない
- B：子どもが安心して遊べる公園

地区の子どもたち

- A：地元の方と接したい。昔の様な……
- B：地域ぐるみのおせっかい



3グループ

観光分野

外国人観光客

- A：地域の暮らしを体験したい
- B：マッチングシステム、窓口体制構築
- A：多言語案内。アプリ（機能etc…）。目的地となる拠点。
- B：SNS情報発信

外航クルーズ船の乗務員

- A：マニアックな情報提供をしたい
- B：SNS

家族連れ観光客

- A：トイレの整備、子どもの休憩所整備。
- B：キレイなトイレ、授乳場所

日本人団体客

- A：地域の人々とふれあい体験をしたい
- B：夜市のボランティア

商業分野

移住者

- A：魅力的な職場の誘致
- B：企業誘致

くらし分野

下関市民

- A：日常、魅力あるイベントや施設の整備
- B：カラオケetc…。ゲームセンター。100円バス。

地区の高齢者

- A：近隣住民と密接に関係性が構築できる社会をつくりたい
- B：お茶会の開催

地区の子育て世帯

- A：地域で子育てをする環境をつくる
- B：塾の様な教育機関

地区の子どもたち

- A：楽しい場所の整備
- B：本屋、カラオケ

若者

- A：遊ぶ施設、場所の提供
- B：カラオケ

近隣住民

- A：生活関連サービスの提供。生活用品がそろう場所の整備。
- B：コンビニ



4グループ

観光分野

日本人団体客・日本人観光客

- A：日本百名月「関門海峡にのぼる月」を満月観月会をしながら夜の関門（景色、食…ふく、文化…上臈道中）を一度に楽しみたい。
- B：海峡沿いのホテル、飲食店の協力
- A：美しい海産物を使った食事をしたい。大きな船が目前を通るのを見たい。海べりをゆっくり散歩したい。
- B：地域の分かりやすい地図
- B：温泉施設、屋上プール、下関駅と唐戸を結ぶリフト
- B：唐戸地区と門司港地区を巡るツアー等の整備、関門での共存。

家族連れ観光客

- A：海響館に行き、カモンワーフで食事。はい！からっと横丁で子どもと遊ぶ。

外国人観光客

- A：関門海峡を芝生に座ってながめていたい。歴史を感じる場所に行きたい、見たい。地元ならではの食事をしたい。地元住民と触れ合いたい。歴史的なもの、建物に行き説明が聞きたい。
- B：外国語のお知らせで書いてあるものが少ない。地図が少ない。観光ルートづくり。

外航クルーズ船の乗務員

- A：温泉に入ってみたい。ふぐやうにを食べてみたい。海峡の開発の経過を知りたい。海峡のパイロットと会話したい。海峡の地下の人道を歩いてみたい。
- B：関門のパイロット協会に協力してもらおう

商業分野

近隣住民

- A：徒歩で新鮮な食品、生活用品など日用品がすべて揃うお買い物したい
- B：マーケット(大きな)。他から来ても喜ばれる。例えば値段が安く安全なもの。
- B：格安スーパー、OKストアー。

近隣で働く人

- A：おいしいランチが毎日えらび放題たのしめる、そんなランチタイムを持ちたい。夜は気軽な飲食店が沢山あったら夜歩きしたい。

働く単身者

- A：手軽に食事できる店が欲しい

くらし分野

若者

- A：新しい文化に触れることができる場所が欲しい

若い子連れのパパ

- A：子ども達を安心して遊ばせる場所が欲しい。芝生の広場、公園。
- B：全天候性の子どもの大きな遊び場（有料？）市民0円、市外の人有料

地区の子どもたち

- A：カモンワーフから海響館の岸壁で釣り大会などしたい
- B：子ども会、町内会に提案。

地区の高齢者

- A：若い人との交流、日常のコミュニケーション、多様な趣味体験。

熟年夫婦

- A：海産物を使った料理。足湯につかりたい。いろいろな趣味体験。

下関市民

- A：今、子どもたちに対してのサービスが多い（例えば土曜夜市など）。お年の人も多いので、その人達が喜ばれること。
- B：カルチャーセンター（料理教室、趣味の教室）



5グループ

観光分野

外国人観光客

- A：歴史にふれたい、おいしいものを食べたい、神社仏閣に行く。
- A：わかりやすいマップがほしい
- B：通訳での観光ツアー
- 多言語対応のQRコード

唐戸市場からの観光客

- A：観光、スイーツを食べる、亀山八幡宮に行く
- B：魅力を感じるような場所作り

家族連れ観光客

- A：そこでしか体験できないものを体験する。
- 海響館、はい！からっと横丁で遊ぶ。
- B：体験型施設。ショッピングモール、娯楽施設。

日本人団体客

- A：ふくの刺身を自分でひいて食べる。美味しいものを食べる。酒を楽しむ。
- B：体験型施設。ショッピングモール、娯楽施設。

商業分野

外航クルーズ船の乗務員

- A：日用品を買う。
- 温泉、サウナに入りたい。
- B：買い物できる所。娯楽施設。

若者

- A：オシャレなカフェに行きたい。
- きれいな風景の写真を撮りたい。
- B：海沿いのデートスポット

くらし分野

地区の高齢者

- A：ラジオ体操。体と頭を動かす場所がほしい。お話できる場所に行く。
- B：月2回、エコプラザで高齢者の集まり。集まれる所をもっと作る。

下関市民

- A：お昼からお酒が飲める場所が増えたらいい
- A：フィンランド式のサウナに入り買い物を楽しみたい。ウィンドウショッピング。芝生でモルックもしたい。
- もちまき。
- B：買い物できる所。ショッピングモール。いこいの湯

働く単身者

- A：お弁当屋さん、お惣菜屋さんがほしい。日用品を歩ける所で購入したい。
- B：コンビニ、飲食店。スーパーがほしい。釣り具屋。

近隣住民

- A：ショッピングモールがほしい。
- 気軽に買い物ができる場所。
- B：買い物できる所。ショッピングモール。

地区の子育て世帯

- A：子どもが安心して遊べるような所がほしい。街全体が家のような存在へ。
- B：子どもを見てもらえる施設を増やす。子ども食堂。安心して遊べる所。公園（遊具の沢山ある）。

熟年夫婦

- A：夫婦でゆっくり散歩しておいしいものを食べる
- B：商店街のおいしい食べ物屋。それをもっと増やす。

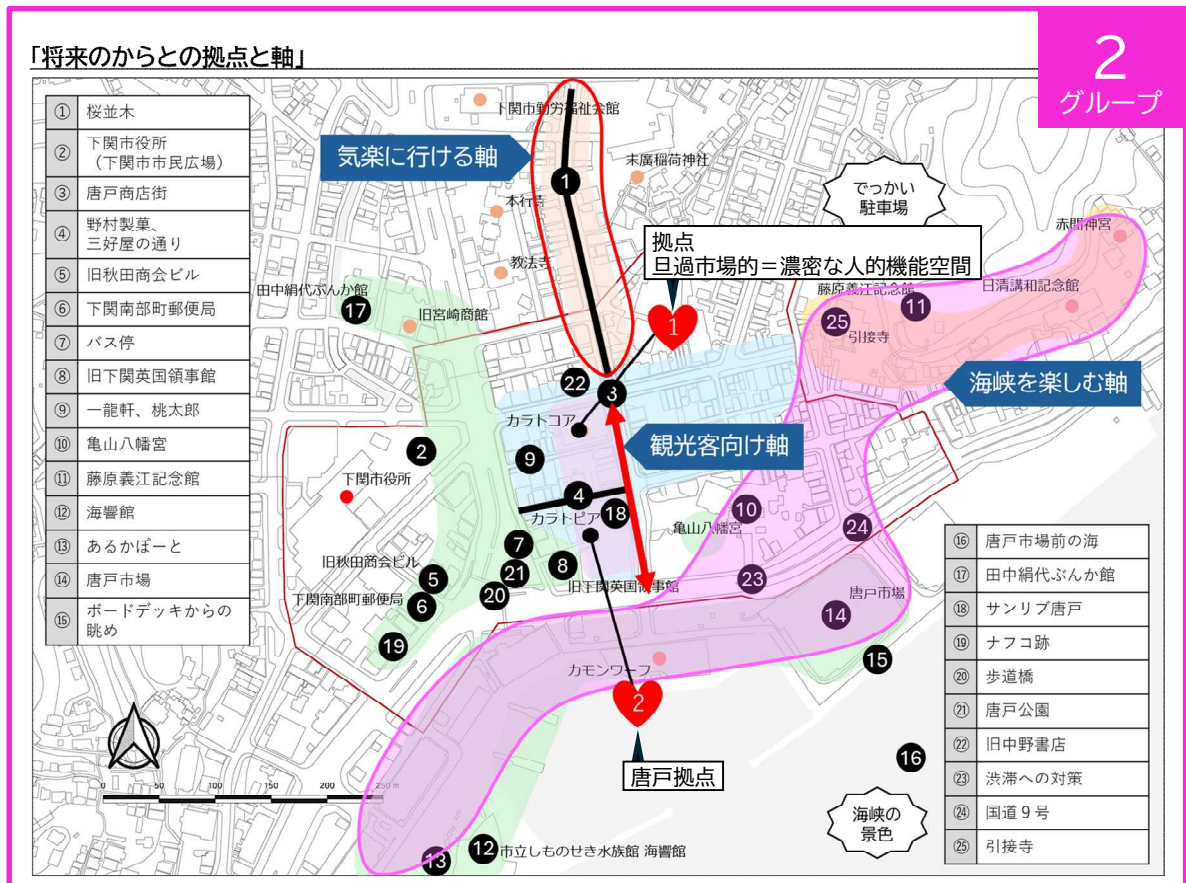
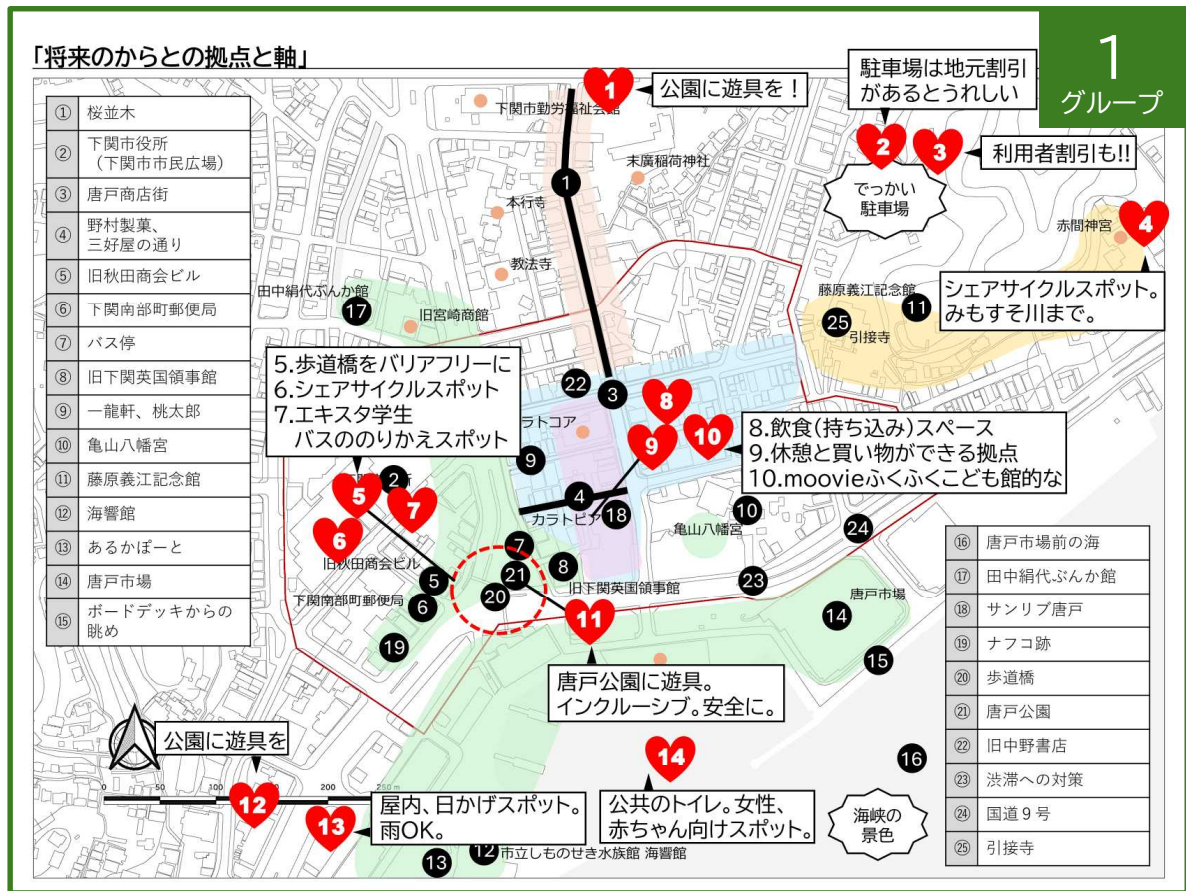
地区の子どもたち

- A：おもちゃ屋さんに入りたい。本屋さん。公園で遊ぶ。だがしやさん。
- B：だがしやを作る



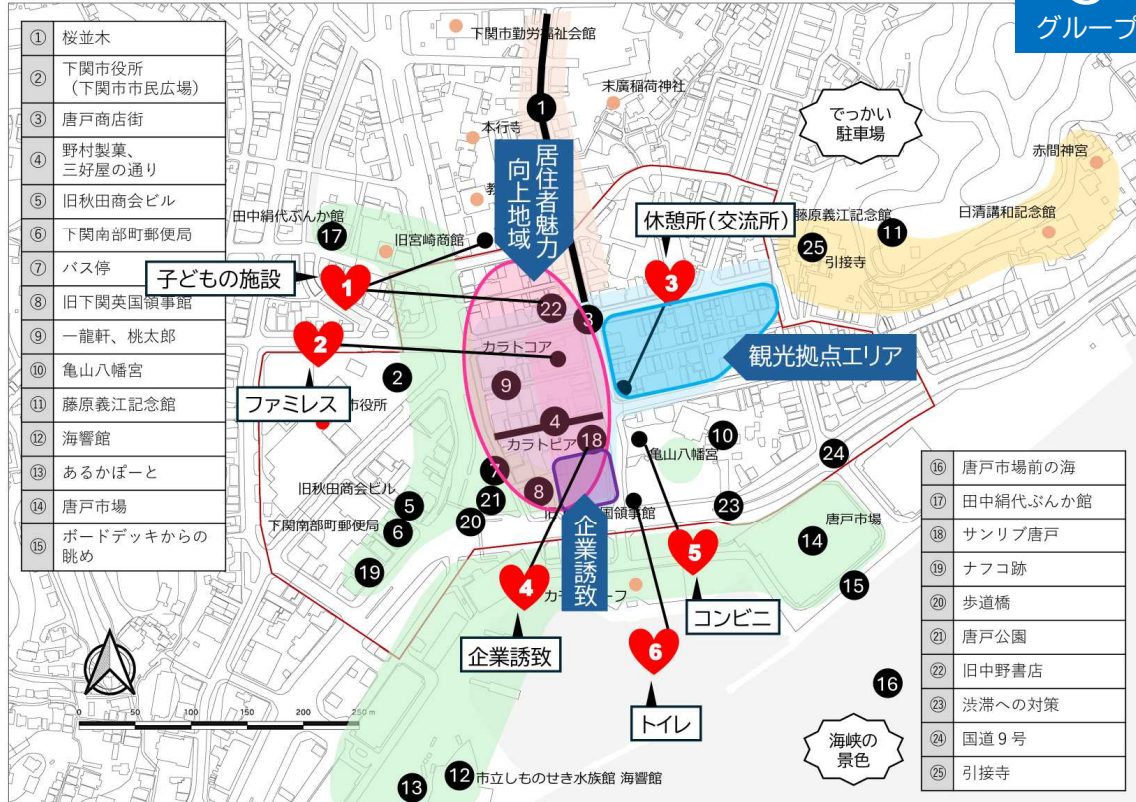
将来の「からと」地区の軸と拠点イメージを広げよう

現在の「からと」の骨格イメージ図に、足りない施設やサービスを出し合いました。そして未来の「からと」でどんな軸や拠点ができるか提案していただきました。



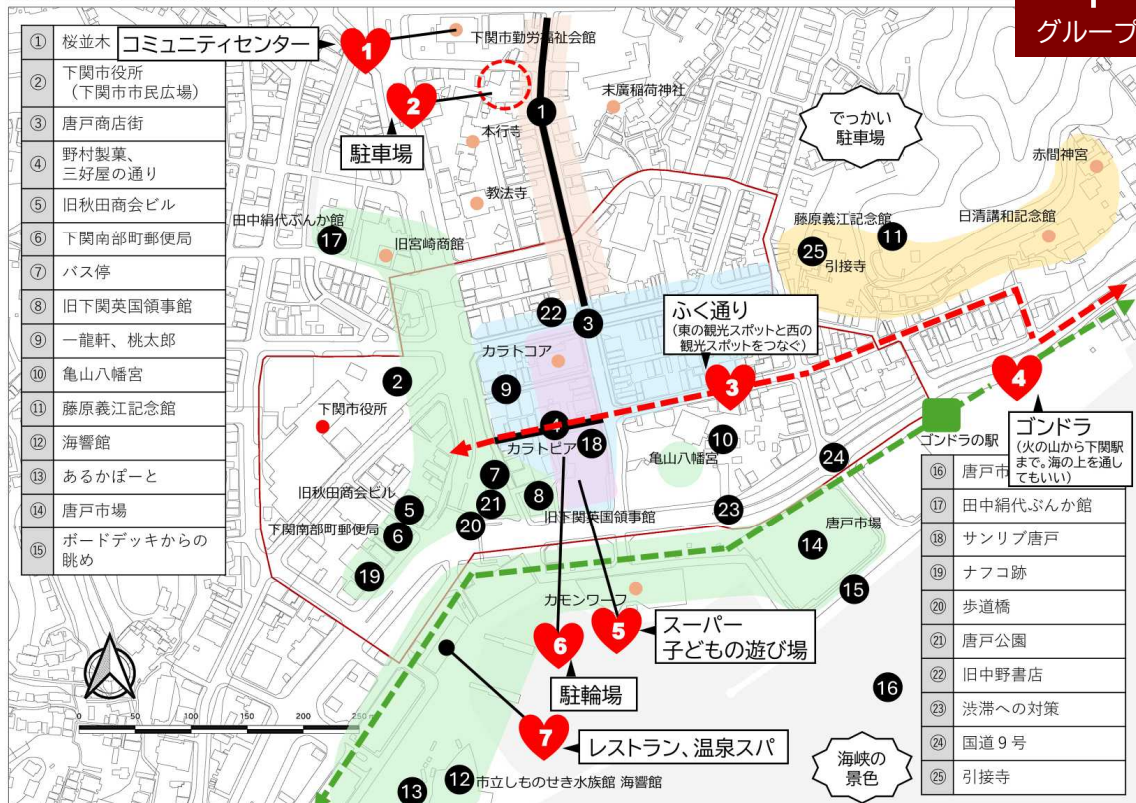
「将来のからとの拠点と軸」

3
グループ

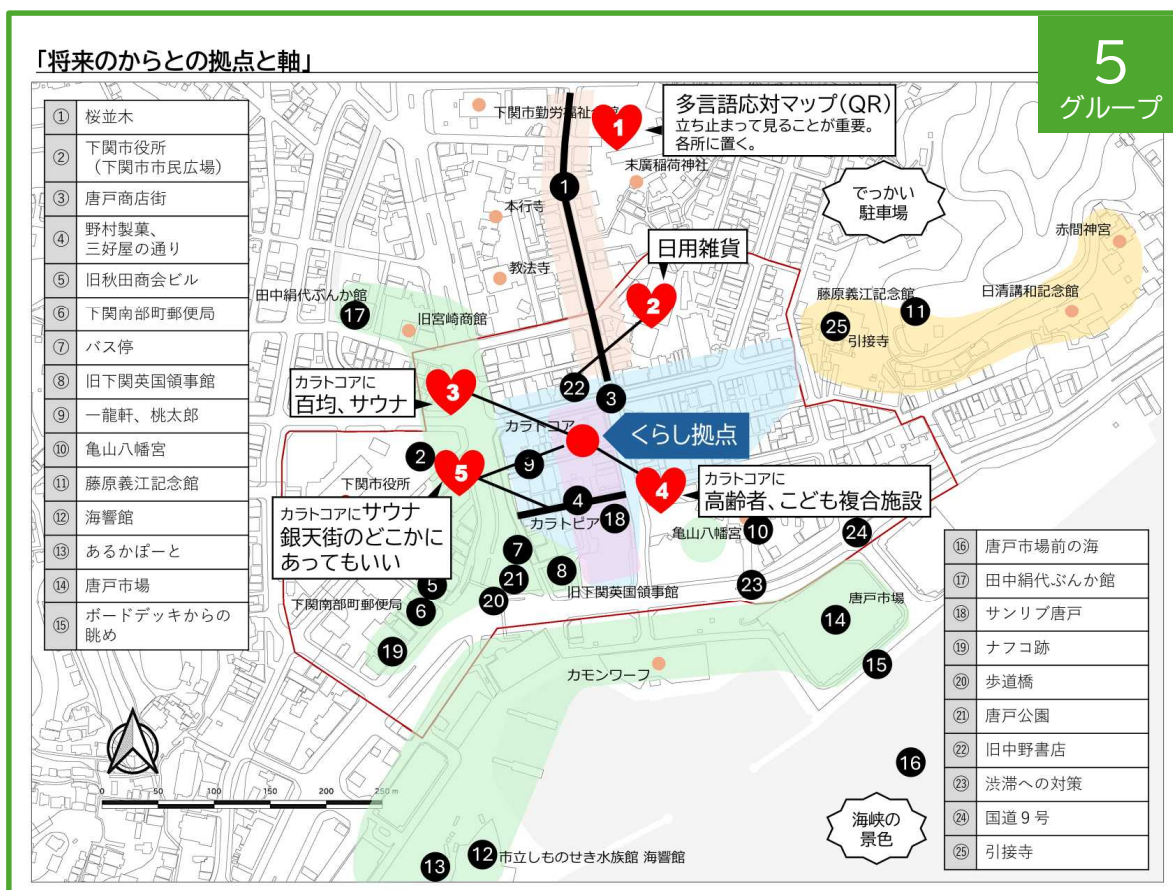


「将来のからとの拠点と軸」

4
グループ



「将来のからとの拠点と軸」



グループ発表

1グループ

- ・そもそも観光、商業、くらしという順番が違う、くらしが一番だと思う。
 - ・公園が3カ所ぐらいあるが、どこにもちゃんとした遊具がない。無料で遊べる、規制のない、自由な空間がもっとあったらいい。ブランコも一つもない。
 - ・散歩コースになり得るが道が整備されていない、看板が少ないのももっとあったらいい。
 - ・カラトピア周辺はサンリブがなくなっても高齢者の方がたくさん来ているので、休憩できたり顔見知りと会える日常の空間、買い物ができる場所が引き続き求められている。
 - ・エキスタのような学生が集えるスポットやMoovvi、ふくふくこども館のような要素がカラトピア内にあると、多世代の人がもっと来るようになるのでは。
 - ・公共トイレ、女性向け、赤ちゃん向けのスポットが全体として少ない。
今、江戸公園と、はれて横丁のトイレぐらいしか思い付かない。
- 



2グループ

- ・「臨海観光軸」など名前が堅い。そこに何を感じるかという視点で「海峡を楽しむ軸」とする。そうすると亀山さんや藤原義江記念館も全部入る。
 - ・一方で日常の暮らしを楽しむ、買い物がありコミュニケーションを「気軽に行ける軸」に。ふれあい通りに集約すると車も通らないし人的接触が生まれるのではないかと。旦過市場的な濃密な人的接触の空間とした。
 - ・唐戸ドームまではよそゆきの空間。今、国道沿いに土日にかいていない珈琲屋があるが、よそゆきの珈琲屋もあり、横に入ると地元の暮らしが生き生きとある。観光客はそれを見るのも楽しいのではないかと。大事なことは、唐戸に魅力的な人がどれだけいるか。
 - ・小さい町なのでどこもかしこも商業機能とするのではなく、桜並木はパジャマとサンダルで立ち話ができる気楽な空間にした方がいいのでは。
 - ・全体として魅力を高めるためには唐戸が唐戸らしくある、その背景には関門海峡があるということ。
- 



3グループ

- ・くらしがメインのまちづくりとし、いかに居住者を増やすか、子育て世帯や移住者がどうすればこのエリアに居住してくれるかと考えて、企業誘致をすることとした。
- ・ファミレス、子どもの学習スペース、学習塾も一緒になったステップなどがあれば、子育てが一体化したり、仕事も一緒にできて生活がコンパクトに収まるのではないかな。
- ・観光のエリアが二つあるが、商業エリアの一部を観光エリアに寄せることで、観光客が商業エリアに入ってきてくれるのではないかな。
- ・観光に行ったときにおむつ替えの場所や子どもが休憩する場所がなく不便を感じる人が多いので、トイレなどをもう少し作った方がいい。



4グループ

- ・この町は観光、生活、遺産が近くに集まっていて、一つの答えで解決するのは難しい場所。
- ・観光としては海峡を見ながら美味しいものが食べられる、点在する歴史的な建物を見るのが一番ではないかな。海峡にまつわる話も聞けたらいい。
- ・商業では地域住民に密着したものがいい。単身者用のマンションができているので、そういう方が手軽に食事できる場所をマーケットと一緒に整備する。
- ・くらしでは子どもが安心して遊べる、市民が趣味や料理に使えるカルチャーセンター的なものを北側に設け、商業施設の方に向かう人の流れを作りたい。
- ・東と西にある歴史的な史跡をつなぐ商店街を形成したい。
- ・観光客のためだけでなく、地域住民のためにも海峡を眺めるためのレストラン、温泉をつくりたい。
また火の山のリフトを下関駅までつなげたら観光資源としても活用できるのでは。



5グループ

- ・サンリブに100均があったときには歩いてでも生活ができたが、今は遠くに行かないといけな、車がないと行けないので、そういうお店がほしい。
- ・カラトコアは名前からして中心なのでここに集約したらどうか。高齢者の頭や体の体操をエコプラザでしているが、そういう施設や日常雑貨のお店とする。
- ・下関市役所では平日にふれあい広場で子どもを預かってもらえるが土日にはない。高齢の方とふれ合える、子どもも一緒に行けるような施設がコアにあったらいい。
- ・数年前からサウナがブームなのでサウナをつくりたい。
銀天街の中にあっても面白いし、カラトコアの中にあってもいい。
- ・外国人も多いので、多言語対応したマップや看板等を設置して見てもらったらいい。



感想カード

ワークショップに参加して感じたことや言い足りなかったことなど、自由に書いていただきました。

まちづくりのアイデア

- 唐戸地区も駅地区と同様(それより大きい)各施設を作っていけば良いと思います。
- 小さい子供達の施設(遊び場、きれいなトイレ、休憩所等)、高齢者の集える場所が必要と思いました。今回も顔の見合えるワークショップは良いと思いました。

- 皆の発表でもカラトピアを中心にという考えの方が多
いと思います。カラトピアは再利用できるそうなので、
サンリブ側と多世代交流の場として、検討してはどう
かと思います。観光で来た人が移住したいと思える町
にしてほしいです。

ワークショップについて

- ワークショップをこれからもやってほしいです。
- 市の職員の方の話しが聞きづらかった。もっと自由の発想で話し合う時間があつたらよかったと思う。
- 今回は議論が発散してしまったのですが、ブレーストミングとしては良かったと思いました。フォーカスのあてかたと着地点が難しかったと思いました。
- 主催者はどうしてもハードに落としどころ、特に観光客などによるお金、経済効果に落としどころを見出そうとしているように見える。しかし地元の人々が楽しく暮らせるということが大前提であるので、そこへのアプローチに時間を割いて欲しかった。唐戸のためには「地元が楽しめる場」づくりが重要であるように考える。そこをきっかけに観光客も地域住民も楽しい方向に進めるのではないかな？
- ・わくわくしない：スライド資料の視覚的見にくさ、ファシリテーションの進行の堅さ△
 - ・マイク、お話聞き取りづらさを感じました。ご高齢の方はもっとむずかしかったのでは？と思います（表情を見ても思ったことです）。
 - ・外の方の視点も大事とは思いますが、火の山？唐戸とは言い難い、違和感を覚えました。徒歩圏内でもないし…。地元の目線との乖離を感じてしまう。→観光客のアクセスを考えるのであれば、住民のアイデアではなく、市全体の流れを考えないといけないと思います。観光政策課との連携は？（観光キャンペーン実行委員会戦略部会員です。横連携をもっと進めてほしい！）
 - ・アイデアはいくらでも出るとは思いますが、実現するのは民間の事業者だったりします。どのように働きかけていくのか、ゴールについても示してほしいと思います。
 - ・皆さんの実感、考えがわかったという点ではとても面白かったです。
 - ・住民のカテゴリ、ペルソナの分散→参加者の幅が狭い。
 - ・このワークショップ、なんで「しもまちポイント」対象ではないんですか？若い人少ない><

いろんな方と話ができて良かった

- いろいろ年代、職種の違う方とお話できて、いろんなところからとらえることができよかったと思います。
- 初参加ですが、色々な意見がきけてよかったと思います。
- 前回より参加人数が増えて良かったです。皆様の考え、想いが実現できれば嬉しいです。
- 初めて参加しましたが、様々な考えの方がいて、沢山の意見が出ていて、素晴らしいと思った。公衆トイレの問題は特に解決してほしいと思った。
- 本WS、最終的な目標設定が分からないまま、議論がスタートしたので……。ただ唐戸に長く住まわれている方々に、地域に対する思いを聞くことが出来て、とても良い機会になりました。
- 参加者からいろいろな意見が聞けました。具体性はありませんが、今後、少しずつ具体化できれば良いと思います。
- 高校生、大学生も参加できる会にしたら視点が広がる様な気がします。

「からと」を考えるきっかけになった

- これまで参加してきて、やはり海峡が一番の財産であることを再認識した。
- からとのコトをしっかりと考えることができた。日々、忙しくあまり考えられていないため、ワークショップはとても良い体験でした。産業や観光の役所の方もいてほしい。
- 唐戸地区の住民の意見を聞くことができたことが貴重な体験となりました。今後、唐戸市場改修に向けて、地域の方の声を聞く取組を行うことを検討するための参考となりました。
- 観光、商業、くらしの視点から唐戸を考えると、3つとも密接に関わっていると感じた。
- 下関は大変いい処ですよ。
- R9号がじゃま。渡りづらい。ネックである。

●事務局より

ご参加くださった皆さま、ありがとうございました。
議論を通じ、将来の「からとの軸と拠点」について、イメージを共有することができたように思います。
次回は昨年12月から続いたワークショップの総括として、「からと」をどんなまちにしたいのか、一つの形にまとめていきます。

